

お盆の季節は、高速道路も新幹線も帰省客で混み合います。家族で帰省ともなれば、荷物も大変です。お土産もかさばることでしょう。

旅は荷物が少ない方が楽に決まっていますが、なかなかそうもいきません。また現代のように人間関係が複雑になればなるほど、心の荷物も増えます。お盆は、ご先祖様にゆっくりしていた

増田龍雨

お盆を迎えて
孟蘭盆や
父暮れて猶啼く
蟬一つ

お盆というのは正しくは孟蘭盆【うらぼん】といい、ウランバーナという梵語【ぼんご】からきたものです。仏教発祥の地、インドの祖先崇拜から端を発したとも言われており、子孫が絶えて供養がなされない祖霊は、逆さ吊りの苦しみを受けると言われていました。この逆さ吊りの苦しみを意味する梵語が「ウランバナ」でそれが中国に入ると「救倒縣」【ぐとうけん】と訳されました。倒縣とは地獄で逆さまにつるさされているのが「救倒縣」すな

お盆の話



仏経豆知識

ただだけでなく、普段、家族との会話が少なかった方もゆっくりと話をすることで、心の荷物を軽くして、身を軽くしたいものです。

身を軽く心素直に持つ人はあぶなそうにてあぶなげのなし

第47号

発行所 龍華寺
静岡市清水区村松2085番
TEL 054-334-2858
Fax 054-335-5860
住職 小倉規敬
龍華寺護持会 会長 池田錦吾

お知らせ

◆客殿玄関に一食一円玉募金箱、教宣のポスター、お便り等を置いてあります。御自由にお持ちください。

◆境内にて蓮の花が咲きます。

わち孟蘭盆の行事です。また、孟蘭盆の盆には、器の意味があります。百味五果と称する種々の供物を盆器に盛り上げて、これを仏様や仏の御弟子に供養して、その功德を以て衆生倒縣【しゅじょうとうけん】の苦しみを救うという意味です。

お盆の因縁は、お釈迦様が御在世の時に遡り、十大弟子の中に神通力第一の目連尊者という方がいました。

ある時、神通力で大千世界の一切の境界を見渡すと、我が母が餓鬼道に堕ちて苦しんでいる様子が見え、目連尊者は助けようと思いましたが、その救助の法を求めると、お釈迦様は静かに仰せられました。

「目連よ、汝が母の罪はあまりに重くて、諸天善神も除くことができない。今はただ十方の僧の力を借りるほかにない。七月十五日は比丘・比丘尼たちが集まって懺悔【さんげ】をする日です。この時に百味の飲食【おんじき】を供え、各地の僧たちに施し一心に汝の母を苦しみから、逃れさせるように祈りなさい」と目連の母はこのようにして餓鬼道の苦盆を逃れることができ、これを因縁として孟蘭盆の行事が始まったとされています。

平成二十七年度 御施餓鬼法要のお知らせ

謹啓

初夏の候 お見舞い申し上げます。日頃、檀信徒の各位の皆様方に於かれましては、山門護持丹誠に御心配りをして頂き心より御礼申し上げます。さて、今年も例年の如く 下記の通り御施餓鬼法要を奉行いたします。お暑い中では御座いますがお誘い合わせのうえ御参加くださいますようお願い申し上げます。

記

謹白

- 一、日時 …… 平成二十七年八月十七日【月曜日】
- 一、世話人集合 …… 八時三十分
- 一、受付開始 …… 九時
- 一、法話 …… 九時三十分より
- 一、施餓鬼法要開始 …… 十時三十分
- 一、無縁碑参拜 …… 十一時
- 一、各家付け施餓鬼
- 一、寺よりの報告
- 一、お齋食

以上

法話

孟蘭盆施餓鬼会とは？

施餓鬼は、六道のひとつ餓鬼道に墜ちて苦しんでいる無縁仏を供養する法会です。お釈迦様の弟子の一人神通力第一の目連がその神通力で亡くなった母親の姿を見たところ餓鬼道に墜ちていることがわかり、目連は母親を救う為にお釈迦様に教えられた通り供養を行い、その功德によって母親を餓鬼道から救い出すことができたという『孟蘭盆経』の故事に由来しています。

貫名英舜上人

富士宮市常泉寺住職
前日蓮宗静岡中部宗務所所長
・早稲田大学第東洋哲学科卒
・立正大学大学院修士課程卒
・元日蓮宗現代宗教研究所研究員
・立正福祉会「青少年こころの相談室」相談員



例年の如く 付け施餓鬼卒塔婆供養を行います。

各家先祖代々之霊位・本年初盆を迎えられた霊位・水子の霊位・回向されたい霊位等々、 付き施餓鬼卒塔婆供養を希望される方は、八月十日までに別紙申し込み書に記載のうえ卒塔婆代【一本三千円】を添えて龍華寺までお願いします。

尚、施餓鬼会は、餓鬼に供養を施し、各家の御先祖様に供養を施すとともに、自分自身の貪りの心に供養を施す行事です。お墓はお寺にあるけどまだ身内がお墓に眠っていない家の方も菩薩の心で御出席頂ければと思います。また都合により来られない方々もおられるとは思いますが、なるべくなら御出席頂きますよう、どうぞ宜しくお願いします。



観富山龍華寺

